説　教　　　　　　　　　　　　　　　　　　聖日礼拝　　北浜チャーチ

黒田禎一郎

２０１９年６月２日（日）

主　　題：「どこからの影響でしょうか」

―神に近づきなさい―

テキスト：ヤコブの手紙４章１～３節

はじめに

・私たちはヤコブの手紙を学んでおりますが、その内容は現代にも通じることばかりで驚いています。たとえば、ヤコブは言葉の失敗を取り上げました。言葉の持つ力を説き、言葉の使い方を誤まらないようにと勧めました。

・先月（５月１５日）、国家の最大与党である自民党は夏の参議院選挙を前に、全国会議員に対し「失言防止マニュアル」を作成し配布しました。それは４月に桜田義孝・前オリンピック大臣と、塚田一郎・前国土交通副大臣が失言し、失職していますので、その引き締めを図る狙いがあるからだそうです。

・ところが、桜田議員はつい数日前に、再び失言を繰り返してしまいました。
今度は女性の赤ちゃんを産む人数についてであり、また問題となっています。

・ところで、マニュアル内容は、「『失言』や『誤解』を防ぐには」と題し；

①　場所、周囲の状況を踏まえ発言をコントロールせよ

②　短文を重ねることで、余計な表現を減らせ

③　歴史認識やジェンダー（性別）についての個人的見解、事故や災害に関しては、配慮に欠ける発言はしないこと。等であります。

党内のあるベテラン議員からは、「こんなマニュアルを作らなければいけないとは、議員の質の低下も甚だしい」という嘆きの声も出ています。しかし、これが日本国の実情でもあります。

・皆さん。ヤコブの手紙は今から約２０００年前に書かれた手紙です。しかし、そこには新聞やテレビで取り上げるさまざまな問題が、そのまま書かれているのでは、と思えるほどです。単語だけ拾ってみても、争い、戦い、欲望、人殺し、快楽などが目に留まります。

・聖書にこのように書かれていることは、決して今に始まった問題ではないということです。人の世界はこうした現実のために、さまざまな法（条項や規則）を作りました。しかしながら、人間がつくった法は完全ではありません。
ですから、時代とともに改正される必要があります。

・しかし聖書こそ時代を超えた、しかもすべての人に適用する神の奥義であることを、私は改めて確信させられています。その聖書が、私たちに生きる正しい道を説いているのです。今日、私たちの生き方について考えてみましょう。

大切なポイント

1．争いの原因はどこに？

1）問題の根

・ヤコブがこの手紙を書いた時は、ローマ帝国が支配した時代でした。彼の祖国ユダヤは、今日の世界、私たちの社会に非常に似ていました。平和、繁栄の時代でした。もちろん、世界各地で戦争、貧しさはあります。しかし第二次世界大戦の最中に比べれば、天と地の違いであります。

・それと同じように、ヤコブの時代も平和でした。平和と豊かさはありがたいことですが、私たちはそれを当然のように思い、神の恵みに感謝することを忘れてしまいがちです。神を畏れず、謙遜な心を失ってしまうのです。

・ヤコブの時代はまさしくそうであり、私たちの今日の社会も同じようです。
人は神を思うより、この世の事に心をとらわれ、世俗の価値観の影響を受けて世に流されてしまいます。そのような危険性は、昔も今も存在していると言わざるを得ません。

・ところで、私たちは社会からの影響を受けやすいものです。なぜなら、社会の中で最も多くの生活時間を過ごしているからです。その社会は完全ではなく、不完全な社会です。不完全な社会の中で、私たちの信仰が本物かどうか、この世の影響をどの程度受けているかが試されるのです。

・ヤコブはこう質問しました。
4:1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょう。
この質問は、信者の間で争いや憎しみが存在していたからでしょう。しかも、それは継続している争いでした。次にヤコブは、疑問文の形で自らの問いに答えています。
4:1あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。
からだの中で争う欲望とは、罪の性質のことです。これが問題の根として存在していると、ヤコブは言いました。

2） ４つの罪の性質

・ヤコブは、４章２節で世的な信者がたどる４つの罪の性質を解説しています。

①ほしがっても自分のものにならない。

4:2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、
これは自己愛から出た欲望が満たされない状態です。

②自分のものにならないので、人殺しをする

4:2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。

・このようなことは、今日もしばしば見られる事です。お金が欲しいから、強盗や殺人をしてしまいます。別れ話しが出たから、カッとなり結婚相手を殺害したり、いとも簡単に人を殺してしまします。(平静時には考えられないこと)

・肉の欲望が強ければ強いほど、「戦争や争い」は大きくなります。
人殺しというのは、比喩的表現でもあります。心の中でだれかを憎んだり、怒ったりすることです。それも殺人に当たります。

イエスは次のように言われました。　マタイ福音書

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受　けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

・このように、みことばから考えると、人は心で殺意の思いを持つものです。。ヤコブの時代のキリスト教会内に、このような悪がありました。パウロのような純粋な霊的信仰者は、ほんとうに稀でした。ヤコブはこれに気づき、心を痛めていました。

③ うらやんでも手に入れることができない

4:2　うらやんでも手に入れることができないと、

人のものを手に入れようとして、それができないと、さらに抑圧が増した状態になります。肉の思いはさらにエスカレートしていきます。そして、

④　争ったり、戦ったりする

4:2　争ったり、戦ったりするのです。

＊　このように、人の欲望はエスカレートし止まることはありません。

これが問題の根に存在する罪の性質です。これはだれもが周知の事実です。では、なぜこのような争いが起こるのでしょうか。どうすれば、神の祝福を得られるでしょうか。

２．神の祝福を得る奥義

4:3 願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

・人が神に求めるものは、自分の願望です。無病息災、家内安全、商売繁盛、入試合格など、すべて自分の利益です。「主よ、どうぞ私をあなたのものとしてください。身も心も財産もあなたのものとしてください。」という美しい祈りは、滅多にしません。

・多くの祈りの内容は「自分の幸せ」のためです。当時のクリスチャンたちも、そのような社会の風潮に流されていました。ヤコブは世の風潮に流されることなく、もっと優先すべきことを行いなさいと勧めました。そこでヤコブは、受けれられない理由を２つ挙げました。

１）受け入れられない理由（世の影響）

①受けられないのは神に願わないから

神の性質は次のようです。

1:17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

②　間違った動機で願うから

・願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとしているからで　す。

4:3 願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

・では、どうすれば良いでしょうか。間違った動機ではなく、正しい動機で神に願い求めることが大切です。

2）神の影響を受ける方法（正しい動機）

・私たちはどんな動機で、神に願い求めているでしょうか。聖書は、神のみこころにかなう願い（祈り）をすることを勧めています。神のみこころ、と聞くと思い浮かべることはイエスが教えられた「主の祈り」です。主の祈りの第３番目で、イエスは次のように祈りなさいと教えられました。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。

・私たちにとって、神のみこころは、ある時は近く、ある時は遠く思うことがあります。みこころとは、神の心（意志）です。神の意志は天の御国で行われているように、今私がいる地上の生活でも行われるようにという祈りです。そこでは神が主権を持ち、神のみこころが行われる最高の所（御国）です。
神は善い神であられ、私たちの人生に最高のご計画をお持ちのお方です

・しかし残念ながら、私たちには神のみこころが不明です。分からないのです。ですから、私たちの欲望（肉の願望）が優先してしまいます。
では、どうすれば、神のみこころを知ることができるのでしょうか。

・私は次の３点を申し上げたいと思います。

① みことばを通して

詩篇作者は次のように賛美しました。詩篇

119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

神のみことば（聖書）は、私の歩むべき道を照らしてくださいます。
私が歩く道がたとえ暗闇の中であっても、光が照らされれば、道が見えます。神は、先が見えない私の道を照らしてくださいますから幸いです。ですから、私たちは日々みことばを読むことは大切です。

② 祈りを通して

祈りは神との会話です。祈っていなければ、主が導いておられるかどうか分かりません。祈っていて初めて、祈りの応答を知ることができます。
イエスは弟子たちに「主の祈り」を教えられる前に、次のように教えられました。

マタイ福音書６章

6:6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

・奥まった部屋（tameion:タメイオン）で、誰にも見られない所で、心静めて祈ることです。それが生活のリズムとなることです。多くの場合、主である神の声は静かに語られます。

③ 交わりを通して

・１コリント人への手紙

1:9 神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

・１ヨハネの手紙

1:3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

・これは神との縦の関係の交わりです。また聖書は次のようにも教えています。

1:7 しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。１ヨハネ

これは互いの交わりであり、横の関係の交わりです。神は、縦と横の交わりの関係で、みこころをお示しくださることがあります。

・いかがでしょうか。私たちは神への信仰（信頼）によって、確信をもってお祈りしましょう。神のみこころにかなう祈りをしようではありませんか。

第一ヨハネの手紙５章

5:14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。

5:15 私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにかなえられたと知るのです。

まとめ

主　　題：「どこからの影響でしょうか」

—神に近づきなさい—

・私たちは創造神を知らない、また神を信じない人々が多い社会で生活しています。そこで多くの時間を費やしています。したがって、知らず知らずのうちに、影響を受けるものです。この世の影響とは、自分中心の欲望が優先するものです。

・しかし創造神を知り、神の愛がどんな偉大なものであるかが分かり、救われた私たちは当然神の影響を受けるものとなります。神に近づくなら、神の影響を受けてきます。そして間違った動機で願望をするのではなく、正しい動機で願望をするものとなります。そのような人生こそ幸いな人生です。

・では、どうすれば正しい動機で神のみこころを知り祝福を受けることができるでしょうか。

１．　神のみことばを通して

２．　祈りを通して

３．　交わりを通して

・今週、神の影響を受けて歩む聖徒とさせていただこうではありませんか。

＊ God bless you!